

宮崎県農業信用基金協会

1. 宮崎県の気候・風土・文化について

宮崎県は、九州南東部に位置し、東南に太平洋を望み、西に熊本県、鹿児島県、北に大分県と隣接しています。県の人口は107万人で、市町村数26となっています。

本県の気候は、快晴日数が年間52.7日(全国2位)、年間平均気温が17.4度(全国3位)と温暖な気候であり、夏季を中心に降水量は年2,509mm(全国2位)と多いものの、「日本のひなた宮崎県」と呼ばれるように、温暖な気候に恵まれています。穏やかな気候、美味しい食物、競技施設も充実しており、プロ野球、Jリーグ等のキャンプを始め、ゴ

ルフのトーナメント、ラグビー日本代表の合宿等、年間を通じ様々な団体の合宿地となっています。

また、風光明媚な日南海岸、霧島連山等や、高千穂町の伝統文化である夜神楽等、観光地は県域全般に広

がっていますので、機会があれば、一度足をお運びいただければと思います。



2. 宮崎県の農業について

宮崎県の総面積7,735km²のうち、森林が5,885km²(76.1%)を占め、農地面積は668km²(8.6%)で、農地のほとんどは火山性特殊土壌で覆われているため、生産性が低く、台風、集中豪雨などの自然災害を受けやすい特徴があり、また、大消費地から遠隔地にあるなど不利な条件もありますが、施設温室による促成・抑制栽培や畜産業などによる集約的な農業を主体として、平成30年度の農業産出額は3,429億円で全国の3.8%(全国5位)となっています。

本県の主要品目は、きゅうり、スイートピー、日向夏、きんかん、ブロイラーなどが全国1位、ピーマン、マンゴー、豚などが全国2位、さといも、肉用牛が全国3位、その他にも、茶、葉タバコなど様々な作目が全国上位に位置しています。

また、特に優れた品質基準のものを「みやざきブランド」として認定し推進PRに取り組んでおり、黒毛和牛「宮崎牛」、「宮崎地頭鶏」、完熟マンゴー「太陽のタマゴ」、完熟きんかん「たまたま」等は、全国的に高い評価を得ています。



マンゴー

完熟し自然落果した果実をネットで受けて収穫したものを「完熟マンゴー」といい、県ブランド基準(品位、階級、糖度)すべて満たしたものを「太陽のタマゴ」と呼んでいます。トロピカルで濃厚な甘みが特徴です。



日向夏

宮崎県原産の柑橘。黄色い皮を薄くむき、白いワタの部分も果肉と一緒においしく食べられ、他の柑橘にはない独特の風味が味わえます。



スイートピー

温暖多照な天候を活かし、他産地にはない宮崎オリジナル品種が多数生産されています。



宮崎牛

5年に1度の和牛のオリンピックである「全国和牛能力共進会」で、3大会連続で内閣総理大臣賞を獲得しました。豊潤で奥深い味わいは国内外で高く評価されています。



きんかん

糖度が16度以上の完熟きんかんを「たまたま」、糖度18度以上を「たまたまエクセレント」と呼んでいます。皮ごと生のままおいしく食べられます。

3.宮崎県農業信用基金協会の概要

当協会は役員13名(理事10名(うち常勤役員1名)、監事3名)、職員18名(信連からの出向者1名と派遣職員1名を含む)で管理部(総務課、管理課)、審査部(審査課)の2部3課体制で業務運営を行っています。



宮崎県協会の役職員の皆さん

4.宮崎県農業信用基金協会の活動

本会の保証引受、保証残高は年々増加しています。特に農業資金は、肥育素牛導入資金、施設資金の需要増などによりJAバンクの利子補給・保証料助成のある農業近代化資金やアグリマイティ資金を中心に堅調に伸びています。令和元年度の保証引受額は289億円で、うち農業関連資金が218億円(75.4%)を占め、保証残高は1,242億円で、うち農業関連資金が758億円(61.0%)を占めています。一方、住宅ローンやマイカーローン等の生活資金は、ここ数年、他保証機関に押され、当協会利用率の減少が続いています。

現在、新型コロナウイルス感染症により農業が深刻な影響を受けております。先の見えない状況に農業者は不安を抱え、農業経営の継続自体にも多大な影響が懸念されています。本県においては、新型コロナウイルス感染症関連資金等の保証対応のほか、必要な資金の保証引受、条件変更等の必要な対応を迅速・的確に進めています。

新型コロナウイルス感染症による今後の影響を見通すことは困難ではありますが、この難局を乗り越えるため、行政等を含む関係機関と一体となり農業者の支援に努めて参りたいと考えます。